

国立国語研究所学術情報リポジトリ

パネル・ディスカッション

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳥飼, 玖美子, カール, ダニエル, 莫, 邦富, 西原, 鈴子, 迫田, 久美子, 野田, 尚史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000921

パネルディスカッション

鳥飼玖美子／ダニエル・カール／莫 邦富
西原 鈴子／迫田久美子／野田 尚史（司会）

野田 このパネルディスカッションでは、まず、皆様からいただいたご質問にお答えして、そのあと各先生にそれに付け加えていただくかたちで進めていきます。

なお、本日、ダニエル・カール先生は次のご予定があるということで、ご本人はのんびり構えておられるのですが、マネージャーから必ず四時半にはでられるようにとしつこく言われておりますので、最初



野田尚史

にカール先生にお答えいただきます。では、カール先生お願いします。

趣味の映画を通して語学を学習

カール このあと仕事はいつたよう、時間とか全然意識してなかったんだけど、すいません。質問を二ついただきました。一つは、福田さんからです。「日本人が英語を効率的に学ぶ方法で、お勧めの方法をご教示ください。特にリスニング強化法をお願いします」。よく聞かれる質問です。これやっぱ難しいです。人によって使いやすい教材つてありますよね。いろいろな教材が世の中たくさんあるんだけど、自分にあった教材を選ぶのがとっても大切です。興味のある分野を通じて外国語を勉強するのがベストだと思います。

私も昔、英語指導主事助手やっていたとき、教科書とか見たんです。たとえば、高校生が勉強している英語の文法とかを教えるわけな

んですけど、中身が、たとえば、国連での法律の決め方といった堅い話題とか取り上げて、世の中百人のうち何人の高校生が興味を持つ話だろうか。大学にはいつでも興味を持っている人はまだ少ないと思うんです。できれば、生徒さんたちの趣味、たとえば、サッカーが好きだったらサッカーについての記事とかを通じたほうがいんでねえかなと思います。

また、お勧めできる教材というか勉強する方法は、特にリスニングでしたら、今世の中で便利なのがあります。映画が好きな方でしたらDVD屋さんについて借りてくると、日本語のスーパーだけでなく英語のスーパーもでるんですよ。だから、好きな映画を一つ見つけて、それを借りたり、買ったたりして、何遍も聞きながら文字を見ていて、ときどき文字を消したりとかいろいろすると、なんとというか、好きな映画

だったらやっぱり覚えなくなるんです。台詞一つひとつ。私、子どものころから映画が大好きだから、この方法が僕にとってはベストだったけども、女房はちよつと違うんだ。女房は映画にあんまり興味ねえんだ。でも、女房は音楽が大好きなんだ。

音楽を通してのリスニング、英語学習

山形で生まれて育てられた女房だけど、山形県いや東北六県のなかで一番英語の発音の上手な英語のせえんせえだつたんだ。オラにも教えてねえんですよ。すごつく英語が上手です。なんして上手なのかと。最初、ロシアから来たスパイじゃねえかと思つてたんですけど、聞いてみたら、音楽が好きで、小学生のころからラジオを何気なく聞きながら勉強していたんですつて。日本の音楽も好きだったけども、どちらかというととビートルズとかトム・ジョーンズ、モンキーズなど、その時代の音楽を、ハンハンハンとかやりながら勉強してたわけです。それが自然にというか、いつのまにかかたちになっていった。やつぱり、聞けば聞くほどだんだん意味も知りたくなっ

て、小学校四年生とか五年生のころから独学で英語をNHKのラジオ講座で勉強し始めた。山形の米沢市だから、あまりテレビにそういうのがないし、教科書もそんなにあった時代ではなかったもんだから、NHKに頼るしかなかったんですよ。たぶん、そのとき鳥飼せえんせええじゃなかったんでは。あつ、違うんですか。

とにかく、音楽が好きだったら音楽の歌詞を見ながら一緒に歌ったり、カラオケにいったりとかがいい方法だと思います。発音もうまくなるし、意味もわかるようになります。リズム感も生まれてくるんです。映画が好きだったら映画を利用する。どうしても国連に興味津々だったら国連の本とか読んでてもかまいませんけど、趣味を通じてやるのがオラはお勧めだと思います。

初めて聞いた「グサイ」って、名前？

もう一つ、本川さんからは、「日本語のなかで一番美しい日本語と、一番不愉快だった日本語を教えてください」という質問です。いろいろな日本語の単語のなかで一番美しいのは難しいんですが、たぶん、一番好きな言葉は、「あずましい」です。これは津軽



弁でよく使われたり、山形弁でもある程度使う、「我つましい」と書きます。意味は、「快適、気持ちいい」。お風呂にはいったときに、「あー、あずましーい」とか言ったりします。これが、わがつまと同じように、完璧に何というか、comfortableというような意味で使われていると思います。これが一番いい日本語だとオラは思った。方言だけんど。

一番不愉快だった日本語は、「グサイ」です。この言葉に、オラちよつとひっかかったことがあります。奥さんのことけなすときは、やっぱり「うちのグサイ」とか言ったりしています。これも初めて聞いたのは山形です。

ある日、偉い先生のうちに呼ばれました。すごく緊張してたんだ。上司の上司の上司の上司くらいの人だったんで、すごく緊張しながらも家を訪ねたんだ。そこで、はいったら奥さんもでてきて、こちらの方はもしかして奥さんかなと思って、「あつ、奥さんですか。おばんです」とか言ったら、そのせえんせえいが気がつきまして、初対面だということで、正式に紹介してくれたんです。「これがうちのグサイだ」とか言う



ダニエル・カール

んです。

このとき僕は生まれて初めて聞いた言葉だから、玄関で困ってしまいました。ご挨拶をかわしている真つ最中に、突然、わからない日本語がでてきて、早くなんか言つてフォローしねばならない。玄関で考えこんで、考える時間が〇・五秒くらいしかなかったんだけど、「グサイ、グサイってどういう意味だろう。あつわかった。奥さんのお名前だろう」と思って、僕が、「あつ、グサイさんですか。どうも初めまして」とか挨拶したら、なかにはいっている人たちみんなが大笑いなんです。なんで笑ってんだ、発音が悪いんだろうかなと。

全然意味がわからなくて、そのまま上

がって、その後、お料理とか一品一品奥さんが持ってくるたんびに、私が行儀よくお礼を申し上げます。「あつ、ありがとうございしました、グサイさん」とか言ったりして。下げるときも、「おいしかったですよー、グサイさん」とか言っていたんです。あとで酒がはいって、「クサイチャーん」とか言ったりして、言うたびにみんなが大笑いするんですよ。何で笑ってんだべえと、理由はわかんなかったけんど、気になつていて、翌日県庁で『広辞苑』で調べてみたんでしゅ。

あの漢字を見て、オラたまげたーたやなーあ。音読みで「ぐさい」、訓読みで「おろかなつま」と書いてあんです。「馬鹿な妻」つう意味なんです。英語に訳したら「foolish wife」です。アメリカにいつて自分のかみさんのことを人の前で、「foolish wife」なんて言ったら、殴られますよ。「いやー」と思っていたのですが。えらい目にありました。

意味がわかったら、あのせえんせえがなんして自分の奥さんのことを「愚妻」って呼ぶんだ、ひどいんじゃないかと思つたら、その後、何百遍も奥さんのことを「ぐさい

さん」と呼んだのが私でした。恥ずかしくて恥ずかしくてね。そういう不愉快な日本語がありました。

両方とも女房、妻と関係あることですが、ぱっとその二つを思いつきました。山ほどネタはあるんですけども、これくらいでよろしいでしょうか。

野田 ありがとうございます。このあとは、講演の順番で鳥飼先生からお願いします。

「ややつく日本語」の条件とは

鳥飼 たくさんいただいたので全部は無理かと思いますが、似たものをまとめると、「単純日本語、ブロークンな日本語の日本での普及の可能性について」と、「震災で表出した言語の問題について、公共性ある機関などで使われる、ビジュアルを含めての雑劣さが原因の課題としか判じ得ません。日ごろの放送や大手メディア、刊行物にも共通する恣意的サボタージュにも感じられませぬ。打開策は、やさしい日本語では説明不足かと思えます」という趣旨のご質問です。二つともやさしい日本語についてでしたので、少し詳しく説明させていただきます

す。

これは恣意的に単純にブロークンな日本語にするということではありません。じつは、阪神・淡路大震災以来、弘前大学がずっと研究してきたものです。そして、東日本大震災の反省をふまえてもっと早く普及させなければということ、相当に力を入れてガイドラインをつくりました。それは、簡単に言うと、日本の小学校三年生の国語のレベルの日本語で、たとえば、掲示板などに書くことです。難しい言葉は避けて、簡単な単語を使う。基本語彙が二十語。一文は短くする。難しい言葉は避けるのですが、災害時によく使われる言葉、たとえば、「避難所」などは覚えておいたほうがよ



鳥飼美子

いので、「避難所」にルビを振って、かっこをして、（みんなが逃げるところ）というように書いて張ると、読んでわかる、ということ。

それから、カタカナは避ける。カタカナ表記の外来語の由来は、英語が九〇%以上ですが、もとの英語の意味とずれているものがほとんどですので、使うとかえって混乱するので、カタカナ語は使わないようにします。

また、さきほども、「オノマトペ」ができましたが、擬音語のようなものはわからないので避ける。さらに、曖昧な表現は避ける、二重否定は避ける、というようなことです。基本的には、災害があった際に、外国の人たちが読んで何とかわかる、聞いてわかる、そして逃げるができるための日本語です。それを応用してNHKがニュースでの日本語について研究中です。

ですから、これはブロークンな日本語ではありません。じつのところ、日本社会全体に影響を及ぼしてもよいのではないのでしょうか。さきほどの西原先生のご報告でも、これから外国からの人たちが増えてきて、日本が多文化社会、多言語化社会にな

ることを考えると、普通の私たち母語話者がしゃべっている日本語がわかって当たり前ではすまされないうきもありません。そのなかで一番重要なことは、論理的に話すこととでしょう。非常にハイコンテキストで、共有している部分が多い場合には、あうんの呼吸でわかりますが、そうではないことはダニエル・カールさんの話にでてきた通りです。ですから、この人はわからない、この人にはわからせたい、というつもりで丁寧な話をするのが、「やさしい日本語」の理念につながるように思います。

外国人による

「ファンサブ」の流行・発達

もう一つの質問は、「グローバルというのは、人、モノ、金のように国境を越えるものであって、国は国境を越えられるか。それに伴って、国境を越えることができる言葉、越えられない言葉に分けられるのではないか」というものです。普通、国は国境を越えられません、たとえば、EUの試みなどは、限りなくEU圏内で国境をなくして、パスポートもビザもなにもなく、自由に行き来するようにしています。仕事も、

今自分のいるところよりあっちのほうにいい仕事がありそうだと思うたら、簡単に移動するという意味では、国家間の国境が、限りなく垣根が低くなる可能性はあると思います。そして、言葉が国境を越えるというの、この言葉は無理、この言葉は越えられるということはありません。どのような言語であっても、今は国境を越えることができます。それはインターネットの発達によりますね。日本語は一つの例としてただけです。日本語はもちろん国境を越えています。

日本というと、世界の若者が一番好きなのは漫画、アニメです。日本の漫画を理解したいから日本語を勉強するという若者たちが、ヨーロッパにも北欧にもアメリカにもたくさんいます。そういう人たちに何人も会いました。好きが高じて日本までやって来る人もいます。

そして今、翻訳の分野で非常に大きな興味をよんでいるのは、「ファンサブ」です。漫画やアニメに字幕がつきますよね。日本の漫画やアニメが好きなたちは、いわゆるプロが訳した翻訳は気に入らないので、インターネットで自分たちでどんどん訳し

て、お互い同士がそれを直していきます。それをファンがつくる字幕(サブタイトル)ということ、ファンサブが大きな分野になりつつあります。

外国語教育の基本とは

もう一つの質問を付け加えます。「小学校からの英語教育に反対の立場のものですが、小中学生などの語学教育の内容を日本文化や社会に特化したものにすれば、日本語に対する造詣も深まり、外国語、他言語の習得も早くなるのではないのでしょうか」。これには私は賛成であり、これだけではないという思いもあります。

なぜかという、それは一見よいのですが、日本文化や社会に特化して英語教育を行うことは、明治時代にも行われました。そして、日本がナショナリズム、国家主義的な方向に向かうときは必ず、日本のよさをアピールするために外国語を学ぼう、英語を学ぼう、日本のよさを英語で発表しようとなってくるんです。しかしこれは、言語とコミュニケーションの関係を考えて場合、半分しかやっていないんですね。言語をグローバル・コミュニケーションに使うと

き一番重要なことは、自分の母語以外の異質な言語に対し理解しようとする心というか、そういう言語があるということに対する気づき、言語的な感性を育てることだと思っています。ですから、小学校、中学校でやるべきことは、ほんとうを言うこと、英語のスキルを教えるのではなく、また、これは英語でどういう言いまわしをするのかということだけに終わるのではなく、日本語と英語なら、英語という言語が、どのように違うのかということ、身近な例から気づかせることです。そうしておいて、小学生のうちに言語のおもしろさと怖さを肌身で感じる、ほんとうの意味での「外国語活動」であってほしいなど。言語に対する意識、感性を育てる一助にすることが、今後の日本人のコミュニケーションにとって必要なことだと思います。自分のよいところを主張することも大事ですが、相手のことを理解しよう、相手の言語もわかるうとすること、これは英語以外の言語についても同じようにしてほしいと思っています。

ほかに質問がありますが、ひとまずここまでにします。

野田 本日はたくさんさんの質問をいただいた

ので、すべてのご質問にお答えする時間がなくて申し訳ございませんが、次の迫田さんに移らせていただきます。

戦前の植民地での

日本語教育はどうなっていたか？

迫田 たくさんさんの質問票を書いてくださり、ありがとうございます。簡単にお答えできるものからお答えしたいと思います。

まず、「在留外国人数の国別の割合が二〇〇八年のグラフでしたが、その後、調査されていないのでしょうか」というご質問です。お国の仕事を疑われるようなことになったので弁明しますと、毎年調査されています。平成二十三年度（二〇二一年）の統



迫田久美子

計では、二百七万八千四百八十人おられ、全体の十九・五%が東京に住んでいます。また、「外国人のための日本語能力検定試験はあるのでしょうか」という質問ですが、試験があります。日本語能力検定試験という試験が毎年行われております。最近、形態がわかりましたが存在しています。

次に、「韓国は、現在漢字を使っていない」とのご指摘がありました。私は韓国を漢字圏に入れていましたが、昔、韓国で漢字が使われていたために漢字圏に含めたのですが、おっしゃる通り、漢字圏からはすすべきですね。失礼しました。

次に、「日本語教師の仕事が認められるようになったのが一九八〇年以降とのことでしたが、戦前の植民地での日本語教育はどうなっていたのですか」というご質問です。もちろん、植民地での日本語教育はありませんでした。ただし、そのときは外国語として日本語を学ぶのではなく、いわゆる同化政策の一つとして、自分たちの国語として教えたので、それは省かせていただきました。しかし、そのときのいろいろな成果、あるいは実践の方法などはその後の日本語教育にも影響を与えています。

また、「もし、グローバルゼーションのことを考えるのであれば、日本人イコール日本語の母語話者とは言えないのではないか。つまり、必ず日本人が日本語母語話者であるということは言えないので、日本人と言わず、日本語母語話者という用語を使ったほうがよいのではないか」というご提案です。私も、そう思います。この点も、これから考えていく必要がある時期がきていると思えました。

「おもしろかったです」は 正用では？

もう一つ、いろいろな誤用例を紹介したとき、『おもしろかったです』というときは、正しいんじゃないですか」というご指摘が、二人の方からありました。これは状況がある程度わかれば、たとえば、すごく楽しそうな顔をしていて、「どうしたの」と聞かれるといった状況があれば、「映画を見にいった、とてもおもしろかったです」のように入ると使えます。しかし、何も状況が明確でない場合、いきなり、「講義、おもしろかったです」と言うのは少し不自然な感じがします。

ちなみに、『おもしろかったです』というのは、ほんとうに正しいのでしょうか」というご質問ですが、「おもしろかったです」というのは、言いにくいかもしれませんが、「おもしろかったですよ」と、後に終助詞がはいったりすると、自然さがでてきます。そのため、私たちが日本語を教えるとき、「おもしろかったです」という言い方は教えますが、実際に使っている場面は、たぶん「よ」とか「ね」を入れて練習します。

ただ、地方によっては、いろいろな言い方があるので、必ずしも正用と誤用の二つでは切り分けられないと思います。

それから、「日本人の使う日本語に乱れがみられる。もつと美しい日本語を話す外国人もいるのではないか。外国人に日本語を教えると同時に、日本人に対する日本語教育も受けさせるべきではないか」というご意見もありました。確かにそう思います。日本語教育は外国の人たちだけのものではなく、私たち日本語話者がこれから学ぶべきところも多いと思います。

ご意見やご質問をたくさんいただきましたが、すべてにお答えすることができません。また、非常に考えさせられるご質問も

いただきました。たとえば、「方言の習得などはどのようになっていますか」、「留学・研修以外で来日されている就労者の日本語習得はどのようになっていますか」などです。時間の関係上お答えできませんが、これだけ関心を持っていただいたことに感謝して、私の回答を終えたいと思います。

日本語にわたっての失われた十数年

莫 私には、「中国の北京、上海に住んでいる十五歳から二十五歳くらいまでの若者のなかに、無意識に『オーケー』という言葉を使っている人は何%いますか」という質問がきています。ご質問の意図が私にはわからないのですが、おそらく西洋文化が中国の言語生活にどこまで浸透しているかという意図ではないかと思えます。

結構増えていることは事実です。英語の学習が普及してきているから、留学生、留学経験者が増えているからだけでなく、映画の影響も受けたりして、こういう言葉を使う一種のかっこうよさなどにひかれて使う若者が増えています。割合は、残念ながら国立日本語研究所が私に調査の予算をくれなかったのでまだ調べていません。また、

会社によって、たとえば、ITなどの会社などを訪問すると、会話にバンバン英語がでてきます。

この質問は、さきほどの講演で触れたことにもリンクしますが、日本の魅力をどう表現するのか。さきほど私が強調したことは、私が日本語を学習するのにどれほど苦労してきたか、努力してきたかではありません。昔、日本、日本語には、自然に魅力がありました。私は一生懸命勉強して、この魅力を身につけようとしていたわけです。今は残念ながら、日本は失われた二十年だけでなく、日本語にとっても失われた二十年まではいかににしても、失われた十数



莫 邦富

年とはいえると思います。一例をいいます。

日本語学校が全盛期のとき、ちょうど私の『蛇頭』という本が一番売れていたころ、日本の日本語学校にはいるために、たぶん早く許認可の手続きをすませてビザをだしてもらうため、一部の日本語学校の関係者に、学生がちょっと心遣いを渡していたと思います。今は完全に逆になりました。学生に来てもらうために、学校側が謝礼を払っています。この謝礼の相場は、以前は五万円、やがて七万円、九万円、十二万円、十五万円、今二十五万円にもなっています。一人の学生に来てもらうのに。

そして、『蛇頭』が一番売っていたとき、日本にいる中国人の出身地を見ると、一位は上海、二位は北京、三位は福建でした。一九九九年以降は、一位は黒竜江省、遼寧省、吉林省など東北地域です。そして今、日本語学校に来る学生は、中国の奥地、山西省、寧夏省とかです。とにかく学生に来てもらうためならば、山奥にもいくというような状態になっています。これは何を意味しているか。私が危惧していることは、日本の国としての魅力だけでなく、日本語の魅力も急速に落ちていることです。実際

も落ちているだろうと思います。

一方、さきほど鳥飼先生がおっしゃったように、映画の字幕などの翻訳を自分で進んでやっています。原稿料なんかないわけですよ。著述業をやっている私からみれば、原稿料のない原稿は書けませんと言いたいわけですが、それをみんな競い合っていてやっています。そして、その翻訳を見ると、なかにはすごくうまい訳もあり、ものすごく感心させられるところがあります。一種のアンバランスができてきます。非常に日本語に興味を持ってきている若い人にあつたとき、ものすごく驚くことがあります。日本語は専攻として選んでいないのに、日本語の単語がバンバンでてくるんです。発音も非常によい。しかし、こういった人たちが日本へ上手に引きつけてくるシステムがまだ完全にできていません。

たとえば、日本の専門学校などを見ると、まだ、アニメなどを教えるところが非常に少ない。旧態依然のものを教えている。その意味では、私はここで具体的な「させる、られる、れる、られる」などの問題、文法現象とか言葉の使い方を検討する必要もあります。より重要なのは、日本の魅力を

より系統的に、効果的に、ダイレクトに海外へ伝えられるような体制づくりだと思います。

なぜ二〇五〇年か

西原 たくさんの質問ありがとうございます。ご質問です。二十一世紀になってから、「これからの半世紀を見通して」といった予測がたくさんでています。二〇五〇年になったらどうなるかという統計資料もできています。二十一世紀を半分経過したという意味でいろいろな資料がお見せできるので、二〇五〇年を選びました。

これからの日本の言語政策とは

また、言語政策に関連していくつか質問をいただいています。外国人研究者が日本の言語政策について評論的に書いた本がいくつかあります。そのなかで、日本の言語政策は、主として日本語そのものを整えるために実施されてきた。たとえば、国語、



西原鈴子

国字、原文一致、また、西欧の学問レベル・技術に追いつくために、それを表現できる近代的な語彙をつくるなどの言語政策は、豊富に立案・実施されてきたが、少数民族の言語問題について、それらの言語と、共通語（標準語）としての日本語のバランスをとる、あるいは総合的に管理するという意味での言語政策は、残念ながら日本政府は行っていないと批判されています。ある言語学者は、言語政策の批判のなかで「日本語母語話者の社会は寄ってたかってアイヌ語を減ぼした。沖縄語を抹殺した」というようなことを述べています。

これからの日本社会が、人口減少に直面するという問題を考えるとき、日本語がど

うなるかを社会問題として考えることは非常に大切だと思います。さきほど二〇五〇年になると一・二人の生産年齢人口で一人の高齢者を支えなければならないという予測を紹介しました。そのことに関する経団連の報告書の概要には現れていませんが、詳しく読んでいくと、日本の生産年齢人口が海外に逃げていくことは、これから起こりうる大きな問題だと書かれています。

今でも海外に生産拠点を移した何万社もの会社があります。これから、ASEANをはじめとするアジア地域、あるいはアメリカ地域まで生産拠点を移そうとしている日本の会社はまだたくさんあります。それに伴って、国内労働人口の流失もあるため、移民というかたちをとって高度人材に来日を勧誘することが考えられているわけです。

人口の高齢化、および生産年齢人口の減少は日本だけの問題ではありません。韓国は既にそのような政策に踏み切っています、中国も一人っ子政策をやめることを検討しているということです。移民を受け入れるのにも競争があります。さきほど日本に魅力がないというお話がありましたが、海外から多くの人が日本に来て働いてくれる気

になってくれるのが大きく疑問視されているところで、これまでのように、「郷に入れば郷に従え」なのだから、日本で働く人は当然日本語を使ってください。日本の商習慣、日本式のコミュニケーションに従ってください、と言っていると、移民獲得競争に負けてしまうことが現実となってくるのが二〇五〇年ごろというわけです。そこでいろいろ考えることとなります。

日本語が公用語になれば、共通語としての性格をはっきり持つこととなります。法律は日本語で書かれる、学校教育は日本語でなされ、メディアも日本語のメディアが中心となることとなります。今の世界のグローバルな人の動きのなかで、移住してくる人が自分の社会文化的背景を捨ててまで日本社会に同化するかというと、そんなことはありません。日本語を大切にするのは当然ですが、あくまで複言語・複文化主義に立ち、彼らを持つてくる言語、文化も大切に、共同して次の日本を創るという考え方が芽をだしています。

そのような考え方を基本的に反映して、外国人労働者問題関係省庁連絡会議が報告書をまとめています。また、日本語教育学

会では、日本語教育に関連して法制化を提案して下さっています。日本の言語政策は、これからは、言語的少数派グループの言語・文化を認めつつ日本語を公用語として共通語にするという点は避けて通れないと思います。

言葉は時代につれて 確実にかわっていく

また、「日本語はどうなっちゃうの」という質問もたくさんいただきました。「自動翻訳機があるんだからそれでいいんじゃないの」というご指摘もありました。確かにそれでいい側面もあると思います。たとえば、科学技術論文のように、書く人の気持ちや、ためらい、慮りが介入しない分野では、自動翻訳機は強力な武器になると思います。しかし、たとえば、言語化していない主語をどう自動翻訳するのか、表現されていないけれど含意されていることを、どうやって自動翻訳できるか。考えるロボットが出現しないかぎりそれは現実的ではないと思います。

さきほどの話のなかで、美しい日本語はいくつ種類があると申しましたが、海外

の人々と一緒に日本語を媒介として生活するとき、今私たちが大切になっている日本語のコミュニケーションがなくなると言っているのではありません。たとえば、「この人頑固だからこの人にはこう話そう」とか、「この人ちょっと物分りが悪いから二度ほど言っておこう」とか、どういう人と対峙しているかによってコミュニケーションの取り方をかえることは、誰でも行っていると思います。そこに、外国から来た人というカテゴリーが一つ加わるわけです。誰でも日常的に行っている対人関係への配慮の、対象となる人々のグループがもう一つ加わるということなのです。そして、私たちが美しいと思う日本語は、なくしてはならないし、なくなることはないと考えております。

それから、「縦書きがとても大切、これこそ日本語」と、思われている方もおられると思います。ただし、このごろは横書きで小説を書く人も現れていますし、学校の教科書が、科目によって横書きにほとんどかわっています。そのようななかで、横書きの文脈と社会の発展、私たちの国語に対する意識が関係して、日本語の書き方も決まっていくのだと思います。

「ら抜き言葉はよくない」と言う人がどれくらいいるかという調査の結果、「けしからん」と言う人が明らかに減ってきているという調査結果がありました。これが二〇五〇年になるとどうなっているのか。言葉は時代につれて徐々にではありますが、確実にかわっていくと思います。以上です。

野田 ありがとうございます。予定の時間を過ぎていますが、最後に本日のお話について一言ずついただければと思います。

鳥飼 日本の社会の今後を考えたとき、今、国語と日本語という話がでしたが、日本語のあり方がかわってくると思います。それをどの程度許容するか、あるいは母語としての日本語、そして、母語としての外国語の存在をどの程度、許容できるかがこれからの日本人にとってのもっとも重要なことではないかと、今日の皆さんのお話を伺いながら考えました。

迫田 今回のフォーラムで、日本語に対して、さまざまな疑問を持ってくださったことが大きな一歩ではないかと思えます。言葉はかわっていきます。ですから、これは正ちよつと言わないんじゃないか、これは正

しいのかなと思われたら、是非その疑問を出发点として、辞書や本を開いてみるといった行動につなげ、学習者と一緒に勉強していただきたいと思います。

莫 国立国語研究所の皆様のご配慮で、私も久しぶりに日本語との一日を過ごさせていただきました。壇上でご来場のみなさんのお顔を見て、感慨深いものがありました。国立国語研究所のやっている、ある意味では難しい話、堅い話ばかりのフォーラムのはずなのに、定員をオーバーしたたくさんの方が応募されたということと、一時から五時までの長時間、そういうところが日本社会のある種の魅力だと思います。こういう勉強をなさっている日本国民の姿に感動しています。リップサービスではありません。ここにご来席の皆様のかなかに、もう年金生活で悠々自適に毎日送ってもいいはずなのに、なぜここにきて、お説教を聞かなければならないのかと思えます。そういうところが逆に、日本のすごいところだと思います。ソフトパワーが、こういうところでもでていると思います。

じつは今夜締め切りのコラムの原稿があります。さきほど、今回の原稿は、こう

いった話題を内容にしようかなあと、ひそかに考えてしまいました。原稿が発表されてから是非読んでみてください。

西原 日本語を母語としない人々を包み込んだ社会で、日本語がどのようになっているのかということについてお話をさせていただきます。それで皆様にお願いが一つあります。思っているけど面と向かって言わないでできたことを、口にだしてみただけませんか。お帰りになったら、奥様、旦那様、お子様に、どんなにその方々を愛しているか、その方々をどんなに大切に思っているかを、わかっているんだから言わなくていい、じゃなくて、わかってもらえるためにもう一度言ってみようというところで、試しに口にだしてみよう。それによつてこれからの日本語コミュニケーションの一つのかたちができていくのではないかと思います。よろしくお願ひします。

野田 ありがとうございます。会場の皆様のご協力でよいフォーラムになったと思います。長時間ありがとうございました。